



南房総のハズシ

授業力の向上、授業改善のために

ちばっ子「学力向上」総合プラン（学びの未来づくり ダブル・アクション+ONE）

Action2

教員の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

実践モデルプログラム活用率100%

千葉県教育委員会では、「ちばっ子『学力向上』総合プラン」（学びの未来づくりダブル・アクション+ONE）において、児童生徒の学力向上を目指し、Action2では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践力の向上を推進しています。

授業改善のスタート

「目標・課題」の明確化と「まとめ・振り返り」の時間の確保

「授業改善」と言われても、何から始めればよいのだろうと悩んでしまうかもしれません。まずは、授業改善のスタートとして、学習の目標と課題を明確化することと、まとめや振り返りの時間を確保するということから始めてみましょう。

本時を通して、児童生徒にどんな力を身に付けさせたいのか、学習後にどんなことができるようになってほしいのかというゴールの姿を想定して目標・課題を明確化することが大切です。

また、学習活動を行うだけではなく、本時の中で、目標は達成できたか、課題は解決できたか、次の学習につなげることができるかなどと、自分の学習をまとめ、振り返る時間を確保して、児童生徒自身が自分の学習状況を理解することが大切です。

この2つのことからスタートさせ、授業力の向上を図り、児童生徒の「確かな学力」を育みましょう。

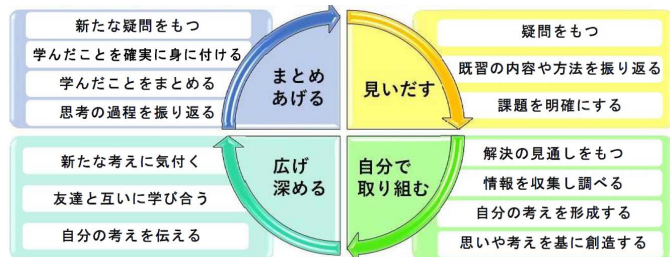
千葉県の授業改善「キーワード」

「自分の言葉で学習のまとめを書く」

単元を見通した「実践→評価→改善→計画…」といったPDCAサイクルを回すことが授業力向上につながります！

「思考し、表現する力」を高める

実践モデルプログラム



【実践モデルプログラムを活用した授業における発問等の例】

小学校低・中学年	
見 い だ す	疑問をもつ 『あれっ？不思議だな』と思ったことは何ですか？ 「どうして〇〇になったのかな」 「答えは〇〇だ！うんそうだ」 *意図的な失敗 「うーん困った、どうしよう」 *意図的な困惑
	課題を明確にする（学習の見通しをもつ） 「みんなの疑問を整理してみましょう」 「さあ、今日はどんなことを学んでいきますか」 「〇〇できるようになりましょう」 *資質・能力を共有

実践モデルプログラムの一括ダウンロード版には、授業ですぐに使える「主体的・対話的で深い学び」につなげることができる発問等の具体的なセリフの例が「授業の前に」「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」のプロセスごとに小学校低・中学年と小学校高学年・中学校・高等学校に分けて掲載されています。右の二次元コードからアクセスして参考にしてください。



（出典：千葉県教育委員会 「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムリーフレット）

実践モデルプログラム
一括ダウンロード

授業改善のための「セルフチェックシート」R4~をご活用ください！

セルフチェックシートは、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、育成を目指す資質・能力につながる学びとなるよう、授業改善のために作成したものです。授業づくりから指導・支援の方法や評価まで、学習成果とともに、教師自らの課題を意識することが大切です。課題を意識することで授業改善のポイントに気付き、教材研究や優れた授業実践から学ぼうとする意欲の向上にもつながると考えます。

セルフチェックシートは「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」に基づいた構成となっています。セルフチェックシートを活用して授業改善をすすめることは、「実践モデルプログラム」を活用した取組につながります。

令和4年度改訂【令和版からの改訂のポイント】

授業改善のための「セルフチェックシート」R4~			
月 日 ()	年 組	指導者	
教科	単元名		
4：十分できた 3：概ねできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			
授業前	指導者は、本時（本単元）を通して資質・能力が身に付いた児童生徒の姿をイメージしましたか？	4・3・2・1	
	<改善のヒント> ・本時（本単元）で目指す児童生徒の具体的な姿を、目標に基づいて想定する。 ・児童生徒が働かせるべき「見方・考え方」を理解する。 ・児童生徒に資質・能力が身に付いたか評価する手立てを準備する。		
本時で行った過程の振り返り	<input type="checkbox"/> 児童生徒が自ら問いを見いだしたり、解決していく課題を明確にしたりしていましたか？	4・3・2・1	
	<手立てのヒント> ・児童生徒が自ら疑問をもち「主体的な学び」を実現することができるような資料や発問を準備する。 ・本時の学習の手助けとなる既習事項を確認する。		
振り返り	<input type="checkbox"/> 児童生徒が自分の考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりすることができましたか？	4・3・2・1	
	<手立てのヒント> ・課題を解決する見通しがもてるように、既習の内容との相違点や学習のめあてを児童生徒とともに確認する。 ・「見方・考え方」を働かせながら必要な情報を収集して調べることができるよう、ICT環境や資料等を用意する。 ・「深い学び」が実現できるよう、取り組む時の視点や思考の進め方を指導する。		
まとめ	<input type="checkbox"/> 児童生徒が多様な考えを理解したり、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、新たな考えに気付いたりしましたか？	4・3・2・1	
	<手立てのヒント> ・自分の考えを根拠をもとに伝えられるよう、伝えるときに意識すべきことを指導する。 ・「対話的な学び」が実現できるよう、児童生徒同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等の場面を設定する。 ・知識を相互に関連付けたり、新たな考えに気付いたりできたか確認し、個に応じた助言をする。		
よめあげ	<input type="checkbox"/> 児童生徒が学んだことを確実に身に付けるとともに、新たな疑問をもちましたか？	4・3・2・1	
	<手立てのヒント> ・学習活動や思考の過程を振り返り、「自分の言葉で学習のまとめを書く」場面を設定する。 ・学んだことを確実に身に付けるために、練習問題に取り組む。 ・「見方・考え方」を今後の学習や生活にどのように生かすかを考える場面を設定する。 ・学習活動を次につなげて「主体的な学び」が実現できるよう、新たな疑問をもつような発問をする。		
(授業改善メモ)			

指導者が自己評価を行うチェック項目を、児童生徒の姿から授業を振り返る文言にしました。

自己評価の結果、目指す児童生徒の姿に到達しなかったという場合に、どうすればよかったのかを考えるために、<改善のヒント>や<手立てのヒント>を掲載しました。

本時で行う部分だけの振り返りを行うことができるように、を入れて選択できるようにしました。

管内小・中学校において実施した「令和4年度教育活動等に関するアンケート」の結果、昨年度の「セルフチェックシート」の活用率は小学校で100%、中学校で96.8%でした。今年度も、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のために、「セルフチェックシート」R4~をご活用ください。